

第67回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

HAM017AM	高校	応用数学	香川県
学校名	高松第一高等学校		
研究作品タイトル	片付け最適戦略についての考察		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	西尾 佳也、瀬川 暖人		
指導教諭氏名	松岡 功		

【動機】

多くの人が、出した物はすぐに片付けをするようにと言われてきました。しかし、私たちはできることなら片付けをしたくありません。そこで、できるだけ片付けをせずに、なおかつ快適に過ごせるような戦略を考えるため、この研究を行いました。

【方法】

片付けの回数を変えながら生活し、その労力を図るという実験を行うことは難しい。一方で、生物の個体群動態や模様のパターン形成などを数学を用いて研究する数理モデルの存在を知り、この手法を用いて片付けの最適戦略を考察できると考えました。

【結果】

片付け回数は多すぎても少なすぎても、生活労力（ものを取り出したり片付けたりするための労力）が大きくなることが分かりました。すなわち、散らかし過ぎず、片付け過ぎない、最適な片付け回数が存在することが分かりました。

【まとめ】

私たちはよく「出した物はすぐに片づけなさい」と言われてきましたが、その戦略が最適ではなかったということを、この研究結果は示唆していると思います。

【展望】

数理モデルによる研究は、それまでの定説に新たな視点を与えてくれるものだと感じました。人間の心理と行動をよりよく理解し、生活様式の見直しや、人間の心理的・身体的な観点からのケアなどに応用できると考えています。